



東京慈恵会医科大学
大学院医学研究科 医学系専攻博士課程

学生募集要項

二次募集（一般・社会人入試）
2025年度

THE JIKEI UNIVERSITY Graduate School of MEDICINE

病気を診ずして病人を診よ

研究によって病に苦しむ人を救う



東京慈恵会医科大学 学長
医学研究科長

松藤 千弥

東京慈恵会医科大学の源流を辿ると、1881年(明治14年)に発足した医学団体「成医会」に行き着きます。成医会の目的は「専ら医風ヲ改良シテ學術ヲ講究スルニ在リ」とされ、病気を患者から切り離して学問の対象にするような当時の医風を変えたいという思いとともに、研究を通して病に苦しむ人を救おうとする強い意志が込められています。成医会のリーダーは、英国セントトーマス病院医学校で医学を学び帰国したばかりの高木兼寛。彼は成医会に続いて、教育機関である「成医会講習所」、教育機能をもった施療病院である「有志共立東京病院」、日本最初の看護師養成機関「看護婦教育所」を次々と設立し、英国医学の伝統を受け継ぐユニークな私立医科大学の原型を創ったのです。

高木兼寛が英国で医学を学ぼうとしたのは、当時の日本で猛威をふるっていた原因不明の難病、脚気を撲滅したいと考えたからでした。彼は、最新の医学とともに、疫学・公衆衛生学の考え方や、病気を人や社会から切り離さない英国医学の伝統を力いっぱい学びました。帰国後、成医会設立などの活動をしながらかん研究に取り組み、疫学的手法を用いて、脚気の原因は栄養の欠陥であり、食事の改善によって脚気を予防できるという仮説に到達しました。海軍練習艦の遠洋航海を舞台に行われたこの仮説の立証は、最初の大規模比較介入試験とされています。脚気の予防法確立によって、多くの人命が救われたのは言うまでもありません。

このように本学は、その始まりから今に至るまで、研究を通して病に苦しむ人を救うことを大切な使命としてきました。1956年(昭和31年)、私立大学として初の大学院医学研究科を設置。以来本学大学院は、医学に関する理論及び応用を教授研究し、その深奥を極めることにより文化の進展に寄与するとともに、研究指導者養成の中心的役割を担ってきました。

医学・医療はめざましく進歩しています。しかし解決しなければならない医学的問題は尽きることがありません。生物ゲノムの解読と生命工学技術の進歩を中心とした生命科学の発展が私たちにもたらした最大の恩恵は、ヒトを生物学の真の対象にしたということです。医学的問題の大部分はヒトの生物学上の問題であり、今や私たちは論理的に「狙って」そこに切り込む武器を手にしたといえるでしょう。さらに、生命科学と並んで発展を遂げ、社会実装が進められている情報通信技術や人工知能などの科学技術は、医学と協働・融合し、人間の生活や社会のしくみをも変えようとしています。これら医学的または社会的な波及効果が大きい研究を進めようとするほど、研究者には科学に対する真摯な姿勢と、社会の持続性に対する関心が大切になってきます。

私は今こそ、私たちが医学研究を通じて医学・医療の進歩に貢献できる好機だと感じています。そのためには若い皆さんの力が必要です。本学大学院で、自立して研究活動を行うための高度な研究能力を身に付け、さらに豊かな学識と、医学研究指導者としての教育力を養っていただきたいと思います。大学院には実践的な共通カリキュラムや多様な選択カリキュラムが用意されています。ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、研究助成、海外派遣助成なども充実していますし、優れた論文には「東京慈恵会医科大学 伊達会賞」が授与されます。また、働きながら大学院で学びたい方は社会人入学制度を検討されるといいでしょう。国立がん研究センターとの連携大学院に加えて、国立精神・神経医療研究センターとの連携大学院も始動しています。

私たちの共通の目的である「病に苦しむ人を救う」ことに研究を通して貢献できる情熱あふれる大学院生を歓迎します。

2025年度 東京慈恵会医科大学 大学院医学研究科 医学系専攻博士課程募集要項 二次募集 (一般・社会人入試)

一般入試

1 入学資格

- (1)大学を卒業した者。(原則として医学・歯学または獣医学、薬学(6年制)の課程を修了した者および大学院修士課程を修了した者)
- (2)学位授与機構で学士(医学・歯学または獣医学、薬学(6年制))または修士の学位を授与された者。
- (3)文部科学大臣の指定した者。
- (4)外国において学校教育における18年の課程を修了した者または大学院委員会が認めた者。
- (5)外国の大学その他の外国の学校*¹⁾において、修業年限が5年以上である課程を修了すること*²⁾により、学士の学位に相当する学位を授与された者。
*1) その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。
*2) 当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって文部科学大臣が別に指定するものにおいて課程を修了することを含む。
- (6)臨床に直接かかわる授業細目を選択する者は、原則として医師の免許を有し、2年間の臨床研修を修了した者とする。

2 出願期間

2024年12月16日(月)～2025年1月11日(土)

3 募集人員

66名(社会人若干名含む)

4 出願手続

- 入学志願者は、以下のものを取り揃えて本学学事課に提出すること。
- (1)入学志願票(希望する授業細目の担当教授に押印を受けたもの)
 - (2)入学志願者記録(写真は正面・上半身・脱帽で出願日前3ヵ月以内に撮影したものを貼付すること。縦4cm×横3cm)
 - (3)受験票
 - (4)受験料10,000円(既納の受験料は返還しない)
【医師免許証を有する志願者の場合】
 - (5)臨床研修修了(見込)証明書または臨床研修修了登録証の写し
 - (6)医師免許証の写し
【本学出身でない場合】
 - (7)卒業(見込)証明書(大学院修士課程の修了(見込)者は、修士課程の修了(見込)証明書を併せて提出すること)
 - (8)出身大学長作成の成績証明書(大学院修士課程の修了(見込)者は、修士課程の成績証明書を併せて提出すること)
- ※出願する際は事前に希望する授業細目の担当教授と研究について相談すること

5 入学試験期日および試験科目

| | | | |
|--------|---------------|----------------------|---------|
| 入学試験期日 | 2025年1月25日(土) | | |
| 試験科目 | 学力試験 | 午前9時30分～10時10分(40分) | 小論文 |
| | | 午前10時20分～11時20分(60分) | 外国語(英語) |
| | 面接 | 午後2時～(受験番号順に実施) | |

【学力試験(外国語)免除条件】

次の条件のいずれかを満たしている場合には、外国語試験を免除とする。出願書類とともに成績証明書、またはスコアレポートを提出すること。

ただし、2019年4月1日以降に受験し取得したものを有効な証明とする。

(1)IELTS:アカデミック・モジュール成績証明書
(Test Report Form)

Overall Band Score 6.5以上

(2)TOEFL iBT: Test Taker Score Report
Test Date Scores Total Score 83以上

※ My Best Scores を利用することはできません。

6 試験場

東京慈恵会医科大学 東京都港区西新橋3-25-8

7 合格発表

2025年2月13日(木) 午後1時(予定)

本学ホームページにて発表し、かつ本人宛に通知する。

8 入学手続

2024年11月現在

合格者は、合格通知に記載されている期日までに入学金100,000円、第1学年授業料400,000円を全納のうえ、所定の手続きを完了すること。

9 奨学金・助成金制度

- (1)日本学生支援機構
- (2)各種外部団体による大学院生助成
- (3)大学院研究助成金(2年次または3年次に申請者に支給される。)
- (4)同窓会振興資金による海外派遣助成
- (5)私費外国人留学生授業料減免制度

10 学生教育研究災害傷害保険等

教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために「学生教育研究災害傷害保険」・「付帯賠償責任保険(医学賠)」・「通学中等傷害危険担保特約」の賛助会員となり、大学院生は全員が加入する。(大学負担)

社会人入試

1 入学資格

- (1)大学を卒業した者。(原則として医学・歯学または獣医学、薬学(6年制)の課程を修了した者および大学院修士課程を修了した者)
- (2)学位授与機構で学士(医学・歯学または獣医学、薬学(6年制))または修士の学位を授与された者。
- (3)文部科学大臣の指定した者。
- (4)外国において学校教育における18年の課程を修了した者または大学院委員会が認めた者。
- (5)外国の大学その他の外国の学校*¹⁾において、修業年限が5年以上である課程を修了すること*²⁾により、学士の学位に相当する学位を授与された者。

*1) その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。

*2) 当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって文部科学大臣が別に指定するものにおいて課程を修了することを含む。

- (6)臨床に直接かかわる授業細目を選択する者は、原則として医師の免許を有し、2年間の臨床研修を修了した者とする。

※上記条件を満たし、医療・教育・研究機関、企業等に勤務し、所属長から受験を認められた者

2 出願期間

2024年12月16日(月)～2025年1月11日(土)

3 募集人員

若干名

4 出願手続

入学志願者は、以下のものをとり揃えて本学学事課に提出すること。

- (1)入学志願票(希望する授業細目の担当教授に押印を受けたもの)
 - (2)入学志願者記録(写真は正面・上半身・脱帽で出願日前3ヵ月以内に撮影したものを貼付すること。縦4cm×横3cm)
 - (3)受験票
 - (4)受験料10,000円(既納の受験料は返還しない)
 - (5)受験許可・就学承諾書(官公庁その他民間会社等に在職中の者は所属長の発行したもの。別添の所定用紙)
 - (6)志望理由書(別添の所定用紙)
- 【医師免許証を有する志願者の場合】
- (7)臨床研修修了(見込)証明書または臨床研修修了登録証の写し
 - (8)医師免許証の写し
- 【本学出身でない場合】
- (9)卒業(見込)証明書(大学院修士課程の修了(見込)者は、修士課程の修了(見込)証明書を併せて提出すること)
 - (10)出身大学長作成の成績証明書(大学院修士課程の修了(見込)者は、修士課程の成績証明書を併せて提出すること)

※出願する際は事前に希望する授業細目の担当教授と研究について相談すること

5 入学試験期日および試験科目

| | |
|--------|--|
| 入学試験期日 | 2025年1月25日(土) |
| 試験科目 | 学力試験 午前9時30分～10時10分(40分) 小論文 午前10時20分～11時20分(60分) 外国語(英語) |
| | 面接 午後1時～(受験番号順に実施) |

【学力試験(外国語)免除条件】

次の条件のいずれかを満たしている場合には、外国語試験を免除とする。出願書類とともに成績証明書、またはスコアレポートを提出すること。

ただし、2019年4月1日以降に受験し取得したものを有効な証明とする。

(1)IELTS: アカデミック・モジュール成績証明書
(Test Report Form)

Overall Band Score 6.5以上

(2)TOEFL iBT: Test Taker Score Report

Test Date Scores Total Score 83以上

※ My Best Scores を利用することはできません。

6 試験場

東京慈恵会医科大学 東京都港区西新橋3-25-8

7 合格発表

2025年2月13日(木) 午後1時(予定)

本学ホームページにて発表し、かつ本人宛に通知する。

8 入学手続

2024年11月現在

合格者は、合格通知に記載されている期日までに入学金100,000円、第1学年授業料400,000円を全納のうえ、所定の手続きを完了すること。

9 奨学金・助成金制度

- (1)日本学生支援機構
- (2)各種外部団体による大学院生助成
- (3)大学院研究助成金(2年次または3年次に申請者に支給される。)
- (4)同窓会振興資金による海外派遣助成
- (5)私費外国人留学生授業料減免制度

10 学生教育研究災害傷害保険等

教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために「学生教育研究災害傷害保険」・「付帯賠償責任保険(医学賠)」・「通学中等傷害危険担保特約」の賛助会員となり、大学院生は全員が加入する。(大学負担)

臨床研究専修コースの開設について

2025年4月より、本学教員(助教・レジデント(専攻医))が就学休職することなく、社会人大学院生として本学大学院(医学系専攻)に入学できるコース「臨床研究専修コース」を開設いたします。入試については、社会人入試と同等となり、入学後は、通常の社会人大学院生と同様の履修・運用となります。ただし、入学前に講座所属長と勤務調整を図り、所属長の了承を得ることが必要となり、また、授業細目の指導教員は限定されております。詳細については、大学事務部 学事課 大学院担当までお問い合わせください。

目的・使命

【大学院の目的・使命】

建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づく研究、教育、医療を推進できる高度な能力を涵養し、医学・看護学研究の振興、医療の実践を通して人類の健康と福祉の向上に貢献することが本学大学院の使命である。

【医学系専攻博士課程の目的】

医学系専攻は、本学大学院の目的・使命に基づいた臨床医学、基礎医学、社会医学における優れた研究者の養成を主眼とし、自立して研究活動を行うために必要な高度の医学的力量と医学研究者として必要な人間的力量、それに加えて医学の研究・教育・社会貢献に求められる多様な指導力を身に付け、その基礎となる豊かな学識を深めることを目的とする。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

医学系専攻博士課程では、情熱を持って学び、研究を通じて社会に貢献する意欲のある大学院生を求めています。

【全ての入学者について】

1. 研究を通じて、人類の健康と福祉に貢献する意欲のある者
2. 医学研究の社会的役割と責任を理解できる者
3. 国際的な視野で研究を推進できる者
4. 知的好奇心に富み、研究者として必要な論理性、独創性、先見性および協調性をもつ者

【社会人大学院の入学者について】

医療・教育・研究機関・企業等に勤務し、現場で遭遇した医学的問題を自ら解決する意欲のある者

【連携大学院の入学者について】

全ての国民に最適な医療を提供するための研究者を目指す者

【MD-PhDコースの入学者について】

医学研究者・研究指導者を目指す者

＜入学試験での評価＞

学力試験（英語・小論文）、面接試験により選考します。

英語の試験では、国際的視野で研究を進めていくために必要な英語力を評価します。

小論文・面接試験では、研究意欲、医学研究の社会的理解、論理性、独創性、先見性、協調性および将来の展望等を評価します。

＜入学時までに身に付けておくべきこと＞

- ・医学全般と志望する専門分野における基礎知識
- ・医学研究の社会的役割と責任についての理解
- ・大学院で取り組みたい研究の展望

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

医学系専攻博士課程では、ディプロマポリシーを達成するために共通カリキュラムと選択カリキュラムを実施します。両者を合わせて合計30単位以上を履修することが修了要件となります。

1. 共通カリキュラムは、必修科目と選択科目から編成されています。必修科目は全員が履修する必要があり、自立した研究活動と論文作成の基本的能力、医学研究者として必要な倫理、医学教育に求められる指導力、およびその基礎となる豊かな学識を養います。選択科目では、各大学院生の研究テーマに応じて必要な研究方法を学びます。共通カリキュラムでは必修科目4単位以上を含む8単位以上の取得が必要となります。
2. 選択カリキュラムは、各大学院生の専門的分野の講義・実習および、研究テーマに応じた個別の指導が行われます。研究テーマにふさわしい研究指導者の下に配属され、専門領域の研究に関する知識と技術を修得するとともに、指導を受けながら研究に従事し学位論文を作成します。大学院生は、研究指導者が担当する各授業細目科に派遣されます。研究課題によっては、別の授業細目、総合医科学研究センターまたは国内外の学外研究施設に再派遣されることもできます。選択カリキュラムの履修状況は年度毎に提出する研究報告書によって、大学院委員会が確認します。
3. カリキュラムは大学院生による授業評価および教職員の意見をもとに、継続的に大学院委員会で検討し、改善を図ります。

＜博士課程教育の特徴＞

1. 標準修業年限の短縮
3年以内に修了の要件を満たした場合については、申請に基づいて大学院委員会が審議し、修業年限を3年間にすることがあります。
2. 社会人大学院生への対応
共通カリキュラムは社会人大学院生が履修できるよう、必修科目は平日18時から開講、選択科目は1科目3～4日間程度で単位取得できる等の便宜を図っています。
3. 国立がん研究センター、国立精神・神経医療研究センターとの連携大学院制度について
各機関の職員が連携大学院教授となり授業細目を担当します。社会人大学院生として入学すると就業しながら履修することができます。なお、学位論文の審査は東京慈恵会医科大学で行います。
4. MD-PhDコース
MD-PhDコースは卒前教育と大学院教育の連携による研究者育成プログラムです。東京慈恵会医科大学医学部医学科におけるユニット「医学研究」で所定の単位を取得し、大学院医学研究科医学系専攻に進学した者は標準修業年限が3年間に短縮されます。また、卒前に大学院の共通カリキュラムを受講することができ、大学院進学後、これを単位として認定します。さらに、基礎医学または社会医学の授業細目に進学した者は学費の免除、奨学金の交付、研究費の優先交付等の優遇措置もあります。

卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

医学系専攻博士課程では、課程に3年以上（標準4年間）在学して所定の単位を取得し、以下の全てを修得していることを修了の条件とします。

1. 自立して研究活動を行い、論文を作成して発表する医学的力量
2. 医学研究者として必要な人間的力量
3. 医学の研究・教育・社会貢献に求められる多様な指導力、およびその基礎となる豊かな学識

医学系専攻博士課程では、大学院を修了し、学位論文の審査および最終試験に合格した者に博士（医学）の学位を授与します。

学位論文は、研究指導を受けて行った独創的研究に基づき、査読のある学術誌に筆頭著者として公表した論文とします。学位論文の審査は、学位論文および審査用論文をもとに学位論文審査委員会が行います。学位論文審査委員長が審査結果を研究科委員会に報告し、研究科委員会はその報告に基づき合否を決定し、合格者には学位が授与されます。

器官病態・治療学

| | |
|---------------|--|
| 消化器内科学 | 猿田 雅之 加藤 智弘 |
| 消化管外科学 | 衛藤 謙 |
| 肝胆脾外科学 | 池上 徹 |
| 循環器内科学 | 吉村 道博 本郷 賢一 |
| 循環器外科学 | 國原 孝 |
| 血管外科学 | 大木 隆生 戸谷 直樹 |
| 循環生理学 | 講座担当教授 |
| 腎臓内科学 | 横尾 隆 池田 雅人 |
| 呼吸器内科学 | 荒屋 潤 原 弘道 |
| 呼吸器・乳腺・内分泌外科学 | 大塚 崇 |
| 糖尿病・内分泌内科学 | 西村 理明 |
| 代謝・栄養内科学 | 吉田 博 |
| 膠原病内科学 | 黒坂大太郎 |
| 腫瘍・血液学 | 矢野 真吾 齋藤 健 |
| 総合内科学 | 矢野 真吾 (兼任) |
| 泌尿・生殖器科学 | 木村 高弘 |
| 放射線医学 | 尾尻 博也 |
| 薬理学 | 青木 友浩 |
| 器官・組織発生学 | 岡部 正隆 |
| 高次元医用生体工学 | 岡野シエイム洋尚 (兼任) 横山 昌幸 |
| 再生医学 | 岡野シエイム洋尚 |
| 肝病態制御学 | 坪田 昭人 |
| 消化器内視鏡診断治療学 | 炭山 和毅 |
| 細胞・分子治療学 | 村橋 睦了 |
| トランスレーショナル医学 | 岡野シエイム洋尚 (兼任) |
| 分子腫瘍学 | 吉田 清嗣 (兼任) 鐘ヶ江裕美 (兼任) 河野 隆志 ※ 平岡 伸介 ※ 増富 健吉 ※ 荻原 秀明 ※ |

器官病態・治療学

| | |
|-------------|---|
| 包括がん医学 | 小島 博己 (兼任) 岩崎 基 ※ 米盛 勸 ※ 松井 喜之 ※ 増田 均 ※ |
| 小児科学 | 大石 公彦 |
| 産婦人科学 | 岡本 愛光 佐村 修 |
| 整形外科 | 斎藤 充 |
| 形成外科学 | 宮脇 剛司 |
| リハビリテーション医学 | 安保 雅博 |
| 救急医学 | 武田 聡 |
| 筋生理学 | 竹森 重 |
| 臨床薬理学 | 志賀 剛 |
| 遺伝子治療学 | 小林 博司 |

神経・感覚機能病態・治療学

| | |
|-----------|--|
| 脳神経内科学 | 井口 保之 |
| 脳神経外科学 | 村山 雄一 |
| 耳鼻咽喉科学 | 小島 博己 |
| 眼科学 | 中野 匡 |
| 皮膚科学 | 朝比奈昭彦 梅澤 慶紀 |
| 精神医学 | 鬼頭 伸輔 |
| 細胞・統合神経科学 | 久保健一郎 (兼任) |
| 神経解剖学 | 久保健一郎 |
| 緩和医療学 | 矢野 真吾 (兼任) |
| 分子行動科学 | 渡部 文子 |
| 口腔科学 | 林 勝彦 |
| 脳病態制御学 | 鬼頭 伸輔 (兼任) 栗山 健一 ※ 岩崎 真樹 ※ 高橋 祐二 ※ 久我 弘典 ※ 本田 学 ※ 住吉 太幹 ※ 阿部 十也 ※ |

病態解析・生体防御学

| | |
|-------------|--|
| 麻酔科学・侵襲防御医学 | 上園 晶一 倉田 二郎 藤井 智子 |
| 生化学・病態医学 | 吉田 清嗣 |
| 生化学・分子機能学 | 柳田 圭介 |
| ウイルス学 | 講座担当教授 |
| 細菌学・感染免疫学 | 金城 雄樹 |
| 熱帯医学・医動物学 | 嘉糠 洋陸 石渡 賢治 |
| 感染・化学療法学 | 吉田 正樹 |
| 人体・実験病理学 | 下田 将之 |
| 法医学 | 岩橋 公晴 |
| 分子診断・治療学 | 鐘ヶ江裕美 坪田 昭人 (兼任) 玉利真由美 岩瀬 忠行 山澤徳志子 |
| 分子疫学 | 浦島 充佳 |
| 臨床検査医学 | 越智 小枝 永森 收志 |

社会健康医学

| | |
|-----------------|---------------------|
| 環境保健医学 | 須賀 万智 |
| 健康科学 | 加藤 智弘 (兼任) 伊藤 恭子 |
| 地域医療プライマリケア医学 | 松島 雅人 |
| 遺伝医学・遺伝カウンセリング学 | 川目 裕 |

※連携大学院教授

2024年11月1日付

■ 地下鉄
 都営三田線
 日比谷線
 銀座線
 銀座線・都営浅草線
 丸の内線・千代田線・日比谷線

■ JR
 新橋駅下車 徒歩約12分
 新交通ゆりかもめ
 新橋駅下車 徒歩13分

■ バス
 ○ 東急バス 東98系統
 東京駅丸の内南口バス乗り場～約20分
 等々力操車所～(目黒駅経由)約50分
 「慈恵会医大前」下車

御成門駅下車 (A5出口) 徒歩約3分
 内幸町駅下車 (A3出口) 徒歩約10分
 神谷町駅下車 (3出口) 徒歩約7分
 虎ノ門ヒルズ駅下車 (A1出口) 徒歩約9分
 虎ノ門駅下車 (1出口) 徒歩約10分
 新橋駅下車 (8出口) 徒歩約12分
 霞ヶ関駅下車 (C3出口) 徒歩約13分

東京慈恵会医科大学

大学院医学研究科 医学系専攻博士課程

〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25番8号
 TEL 03-3433-1111 (大代表)

<https://www.jikei.ac.jp/>